

専攻科 11月5日（水）

第12回講座 「里山の作業実践」

講師 金親博榮氏（NPO法人ちば里山センター理事長）

日時 平成26年11月5日（水）10:00～15:00

場所 谷当工房・キャンプ場（千葉市若葉区）

テーマは、里山の作業を体験

金親博榮講師による里山をテーマとする2回目の講座。里山で行う作業を実際に体験した。前半の講座（10月1日）は本科講座と重なったためにレポートが中断、又、9月に2回開催された浅井糸男講師の「動植物スケッチ技法の習得」講座も筆者の都合で参加できず、残念ながら講座の様子を伝えることができなかった。

前回は谷当工房のガレージ教室で里山づくりの理論と技術について学び、本日は、工房の近所にある雑木林につくられたキャンプ場の一角で、機器の使い方を教わりながら里山の草刈りや樹木の伐採（見学のみ）、枝払いなどの作業を体験してみた。

谷当工房のガレージに集合した12名の受講生は、初めに現場での作業について説明と注意を聞き、キャンプ場に移動した。キャンプ場の朝方は、11月ともなると肌寒く感じる。先ず行ったのが焚き火おこし。これはシニアにとってはお手軽な作業であった。

体を温めた後、金親講師とアシストしてもらった篠崎講師（千葉県森林組合）の指導で刈り払い機の操作方法を教わり、実際に5cm位の草を刈り込む作業に挑戦してみる。

午後からは、30年前に植えられたというヒノキの伐採を目の前で見た。切り倒す方向などに注意を払いながら、20m位あろうかヒノキを篠崎講師はチェーンソーで瞬く間に切り倒される。枝落としの作業は全員で行った。その後、全員で境界木の枝落とし作業をノコギリを使って行い、本日の作業を終了した。



金親 博榮講師



アシストされた篠崎講師



ガレージで金親講師から作業計画について説明を聞く。



キャンプ場の朝は肌寒い。早速、暖をとる焚き火おこしに取り掛かる。これも作業の一環。



並んだ機器は刈り払い機。使い方について教えてもらう。ほとんどの人が初めて機器に触ってみたようだった。



刈り払い機にオイルを補給し、エンジンを起動する。



雑木林の下草を刈り払い機で刈り取る。



背負いバンドを装着し、ゆっくり刈り取っていく。



昼食は、谷当工房の作業場で名人が打って茹で上がったばかりの蕎麦を。



午後の作業は、樹木の伐採と枝落とし。先ず、梯子を組み立ててみた。



ヒノキの巨木に梯子をかける。



枝落とし作業の準備中。枝落としは行われなかった。



ヒノキの伐採作業に入る。先ず、受け口に刻みを入れる。追い口は反対側。チェーンソーで瞬く間に樹木は切り倒された。



切り倒されたヒノキ。このヒノキは樹木の上部が二つに分かれて伸びていた。これが選定された理由とか。



切り口を見た篠崎講師は、“うまくないな〜”。これではロスが発生してしまうとか。



切り口を見る受講生。受け口と追い口がすこしずれてしまったようだった。



全員でノコギリとカマを使って、切り倒されたヒノキの枝落としに取り掛かる。



最後の作業は、境界木の枝打ち。作業のポイントを要領よく説明される金親講師。



枝を切り落としていくと、周辺の景色が見違える。つい作業にも熱が入る。



本日の作業も終了。切り倒されたヒノキの前で記念撮影した。